「作文 6」におけるオンライン授業の実践報告

—教師フィードバックとピア・レスポンス—

川名恭子

【キーワード】オンライン授業、教師フィードバック、ピア・レスポンス

1.　はじめに

2020 年度春学期、新型コロナウイルスの感染拡大により、筆者は神田外語大学留学生別科「作文 6」の授業をオンラインで実施することとなった。そこで、事前に大学側が主催する講習会に参加し、YouTube などの動画共有サービスで Zoom（ビデオ会議システム）や Google Classroom（学習管理システム）について自己研鑽を重ねたうえで授業に臨んだ。

担当した「作文 6」では、前学期までの授業の引き継ぎや「作文 5」の担当者との事前打ち合わせの結果、上級レベルの総仕上げとして 1 つのテーマでレポートを完成させることを目標とした。さらに、前学期までの学生の様子や日本語レベル、オンラインで受講する際の負担の軽減などに配慮し、授業設計を行った。具体的には、レポートの字数を前学期の 2000 字から 1600 字に変更し、資料やタスクシートを学生の日本語レベルに合うよう簡素化し、新たに必要だと思われる事項を追加し、作成し直した。また、課題も必ず授業の復習を兼ねた内容で、学生自身のテーマに沿って集めた資料をもとに行えるようにし、その課題を組み立てていけば、レポートが完成するという枠組み作りをした。また、オンライン授業は対面授業とは異なり、教師と学生およびクラスメイト同士のコミュニケーションや関係性の構築が難しいと考え、ピア・レスポンス活動を取り入れたり、全課題に対して教師から学生へ口頭でフィードバックをするなどの工夫を行った。

本稿では、このような状況のもとで担当した「作文 6」における実践報告と学生に実施した振り返りシートの結果から今後の課題について検討する。

2.　授業概要

2-1　授業形態

「作文 6」は、週 1 コマ（90 分）全 13 回の必修科目である。ビデオ会議システムの Zoom を使用し、同期双方向型の授業を実施した。資料や課題のやり取りなどは学習管理システム（LMS）の Google Classroom で行った。

2-2　履修学生

6 レベルの学生 7 名で、国別の内訳は台湾 3 名、ベトナム 2 名、インドネシア 1 名、デ

ンマーク 1 名であった。そのうち、台湾の学生 1 名とデンマークの学生 1 名は今学期に入学したが、すでに来日済みであったため、クラス全員が日本国内での受講となった。残りの 5 名は昨年の秋学期に入学し、「作文 5」の授業を履修済みである。

2-3　授業目標

本授業の目標は、アカデミックライティングへの準備段階として、基本的な文章を書く力、スキル、ストラテジーを身につけることで、具体的には、以下のような内容である。

①レポートで使う資料を収集し、情報を得る。
②レポートの書き方について学ぶ。
③テーマについて、根拠をもとに自分の意見を明確に述べる。
④クラスメイトとの活動を通して考えを深める。

2-4　評価

本授業では、レポートを執筆することが最終課題であるが、授業参加度や課題の内容・提出状況も含め、総合的に評価を行った。

①授業参加度（20%）　　出席と授業への取り組み・態度
②課　　題（50%）　　毎週授業で提示される課題
③最 終 課 題（30%）　　1600 字程度のレポート（第 1 稿と第 2 稿の総合評価）

3.　授業実践

3-1　授業スケジュール

本授業の目標に沿って設計した授業スケジュールの内容および課題については表 1 に示す通りである。

表 1　2020 年度春学期「作文 6」授業スケジュール

回	日	授業内容・活動など	課題
1	4 月 29 日	ガイダンス	
2	5 月 06 日	レポートの書き方（構成、資料と情報の収集）	①資料収集
3	5 月 13 日	レポートの書き方（テーマを決める、問題提起の方法）	②マインドマップ
4	5 月 20 日	レポートの書き方（文体・表現） アウトライン	③アウトライン

5	5 月 27 日	アウトラインのフィードバック レポートの書き方（接続詞と指示詞）	④コメントシート
6	6 月 03 日	クラスメイトのアウトラインをフィードバックする レポートの書き方（事実と意見、引用、参考文献）	⑤参考文献
7	6 月 10 日	レポートの書き方（要約文を書く）	⑥要約文
8	6 月 17 日	レポートの書き方（評価基準、フォーマット） レポート第 1 稿	レポート第 1 稿
9	6 月 24 日	レポート第 1 稿フィードバック	⑦第 1 稿修正 ⑧コメントシート
10	7 月 01 日	クラスメイトの第 1 稿をフィードバックする	レポート第 2 稿
11	7 月 08 日	レポート第 2 稿フィードバック	⑨最終稿
12	7 月 15 日	レポート最終稿のフィードバック	⑩振り返りシート
13	7 月 22 日	最終稿の発表、アンケート	

3-2　ガイダンス（第 1 回目）

第 1 回目の授業では、自己紹介やスケジュール確認のほか、クラス全体のテーマを「新型コロナウイルス」とし、学生にはその中から興味のあるテーマを自由に選ぶよう指示した。テーマを統一したのは、現在誰もが最も関心のある事であり、日本で生活している学生にとって日本語で情報を収集し行動することは大切なことだと考えたからである。その後、30 分程度の時間を利用し、インターネットネット上で新型コロナウイルスについて興味のある記事を探し、どのようなものが見つかったかクラスで共有する活動を行った。

3-3　レポートの書き方（第 2～8 回目）

第 2 回目から第 8 回目までのレポートの書き方の指導を中心とした授業の流れは、以下の通りである。

1. 【Zoom メインルーム：20～30 分】
   ・全体でワークシート「レポートの書き方」の説明部分の確認
2. 【Zoom ブレイクアウトルームまたは映像・音声オフ：40～50 分】
   ・教師による課題①～⑥の個別フィードバック（1 人 5～10 分程度）またはアウトラ

インのピア・レスポンス活動
・課題の個別フィードバックの間、他の学生はワークシートの練習問題を解く

3. 【Zoom メインルーム：20～30 分】
・練習問題の解答解説や質疑応答、個別フィードバックまたはピア・レスポンス活動の感想などについて全体で共有
・課題の内容・提出期限の提示など

レポートの書き方についてのワークシートは、前任者の資料、宇野・藤浦（2016）の『大学生のための表現力トレーニング あしか アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』、石黒・筒井（2016）の『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』や友松（2013）の『小論文への 12 のステップ 中級日本語学習者対象』を参考にして作成した。また、課題は、授業で学習したレポートの書き方や練習問題をもとに、自身のレポートで使用できるアウトラインや参考文献、要約文などを作成できるようにした。

レポートのテーマについては、第 3 回目の授業で最終的に決定した。まず、学生は大きなテーマを 1 つ決め、その中でも特にどのようなことに関心があり、また、なぜ関心を持ったのかについてワークシートに記述し、より具体的なテーマを固めていった。各学生の最終的なテーマは以下の通りである。

表 2　各学生の新型コロナウイルスに関するレポートのテーマ

学生	出身国	テーマ
A	台湾	新型コロナウイルスによる廃棄物の処理の仕方
B	台湾	マスク着用の目的
C	台湾	オリンピック　・パラリンピック延期について ―日本に一体どのような影響をもたらすのか―
D	ベトナム	ベトナムにおける新型コロナウイルスの対策について
E	ベトナム	新型コロナウィルスをめぐる日本人のプライバシーの意識について
F	インドネシア	パンデミック発生中のインドネシアにおける囚人釈放の影響について
G	デンマーク	新型コロナウイルスによる肥満に対するデンマーク社会の価値観の変化

3-4　レポート第 1 稿～最終稿および発表（第 8～13 回目）

第 8 回目の授業では、最終課題（第 1 稿）を提示するにあたり、評価基準とフォーマットについて説明したが、時間的な余裕をみて、第 6 回目の授業で行ったクラスメイトのアウトラインのフィードバック（第 1 回目のピア・レスポンス活動）が終了した時点で、執筆を開始するようアドバイスしていた。第 1 稿・第 2 稿とも同じ評価基準を使用し、評価点を合算したものを最終稿の評価とした。その理由は、第 1 稿で評価基準を満たしていないと指摘された項目を意識化させ、第 2 稿で修正･改善されているか確認するためである。この評価基準は、宇野・藤浦（2016）の『大学生のための表現力トレーニング　あしか　アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』を参考に、授業で使用したレポートの書き方で扱った内容を全て網羅し、作成したもので、以下に示す。

表 3　レポートの評価基準（第 1 稿・第 2 稿共通）

項目	評価内容
内容構成	タイトルは読み手が興味を持てるよう工夫があるか
	問題点やその背景を説明しているか
	テーマを選んだ理由が書いてあるか
	レポートで行うことを示しているか
	テーマについて説明しているか
	問題点に関係のある資料やデータを提示しているか
	使用している資料やデータは信頼性があるか
	資料やデータからわかったことがきちんとまとめられているか
	本論で述べたことをわかりやすくまとめているか
	自分の意見や考え、今後の課題や提案などが述べられているか
	全体を通して一貫性があるか
	オリジナリティがある内容か
	読み手にわかるような言葉を選んで書いているか
	タイトル・序論・本論・結論・参考文献の構成で書かれているか
書き方のルール	レポートの文体（だ・である体）で書かれているか
	レポートの表現を積極的に使用しているか
	接続詞と指示詞が適切に使われているか
	事実と意見が書き分けられているか
	引用が正しく行われているか
	参考文献が正しく書けているか
	レポートのフォーマットを守っているか
語彙文法	文法・文型・構文が正確か
	語彙・表現が正確か

表記	表記の間違いはないか（誤字・脱字、漢字の変換ミスなど）

第 9 回目の授業では、教師が語彙・表現・文法・レポートの形式についてコメントを付けた第 1 稿を、ブレイクアウトルームを使用し、個別に口頭でフィードバックした。その後、学生には、教師のコメントをもとに第 1 稿を修正し、ペア（または 3 人グループ）になったクラスメイトに送るよう指示した。その原稿を読んだペアの学生は、コメントシートに、①良いと思ったところ、②疑問に思ったこと、聞いてみたいこと、説明してほしいこと、③アドバイス、自分の意見、提供できる資料などについて記入した。この回のみ、第 1 稿の修正とコメントシートの記入という 2 つの課題が出された。

第 10 回目の授業では、上記のコメントシートをもとに、ペアのクラスメイトの第 1 稿に口頭のフィードバック（第 2 回目のピア・レスポンス活動）を行った。受けたアドバイスは第 2 稿に反映させ、提出させた。その際、タイトルの左上に「直したポイント」として何を修正したか箇条書きで明記させた。

第 11 回目の授業では、教師が語彙・表現・文法・レポートの形式に関するコメントを付けた第 2 稿を、ブレイクアウトルームで個別に口頭でフィードバックしたが、必要に応じて内容や構成のアドバイスも行った。これは、学生間で日本語のレベルや意欲、積極性に差があるため、満足できるアドバイスやコメントを受けられなかった学生に対してフォローできると考えたからである。その後、この第 2 稿を教師のコメントをもとに修正させ、最終稿として提出させた。

第 12 回目の授業では、再度教師がチェックした最終稿をブレイクアウトルームで個別にフィードバックした。その待ち時間に、振り返りシートに記入させ、終わらなかった場合は次週までの課題とした。

第 13 回目の最終授業では、自己・相互評価を予定していたが、少人数のため全員にレポートの発表および質疑応答をさせた。この活動の目的は、ペアにならなかった学生のレポートに触れることで、知識を深めたり、視野を広げたりと、今後のレポート作成に役立つと考えたからである。

3-5　振り返りシートの分析と考察

振り返りシートは、第 12 回目の授業の課題として自己の学びを振り返り、今後のレポート作成に生かせるよう実施したものである。質問項目については、本授業の目標および内容を再認識できるよう設定されており、以下の通り示す。

1. 基本的な文章を書く力、スキル、ストラテジーについて、「できるようになったこと・新しく学んだこと」、また「よくわからなかったこと・もっと勉強したかったこと」を書いてください。
   1)「①レポートで使う資料を収集し、情報を得る」について
   2)「②レポートの書き方について学ぶ」について
   3)「③テーマについて、根拠をもとに自分の意見を明確に述べる」について
   4)「④クラスメイトとの活動を通して考えを深める」について

2. この授業全体で、気がついたことを書きましょう。
3. この授業で学んだことは、これからの日本語学習や実生活にどのように役立てたいと思いますか。
4. 自由コメント：これからの目標、日本での留学生活、勉強のこと、コロナのこと・・・

まず、レポートで使う資料を収集し、情報を得ることができたかどうかについての回答結果を分析し、考察する。全体的な感想として、今学期は図書館に行くことができなかったため、インターネット上で資料を収集する方法、特にキーワードの入力の仕方により結果が違うことや、「信頼できる情報かどうか」確認することを学んだというコメントがあった。一方、膨大な情報の中、信頼性のある資料を探し出すのにはかなりの時間を要したという意見もあった。この問題については、資料として信頼性のあるリソースの URL を提供し、課題①「資料収集」のフィードバックの際に、なかなか資料が集まらないという学生にキーワードの入力方法を再確認することで、ある程度サポートができたと思われる。

次に、レポートの書き方について学んだかどうかについては、引用の仕方や参考文献の書き方を詳しく学んだという学生が多かった。他にも、レポートを書く際の順番や書き言葉の文末スタイルなど勉強になったという記述があった。特に参考文献の書き方については、意識を向けている学生が少なく、課題⑤「参考文献」も規定通りに書かれていない学生が多かった。そのため、正式なレポートや論文には参考文献を書く際に必ず規定があることを説明し、必ず順守するようアドバイスした。

根拠をもとに自分の意見が明確に述べられたかどうかという質問に対しては、テーマが自分で選んだ興味があるものだったため、意見を明確に述べるのは難しくないが、根拠を支える資料の収集が難しかったとの回答が多かった。この回答から、意見を述べるには、必ずもとになる根拠が必要であるということを意識化できたことが伺える。さらに、資料を読み、内容を整理し、分析して意見を述べることは、多少上達したと答える学生もいた。

クラスメイトとの活動を通して考えを深められたかどうかに関しては、全員が肯定的な意見を述べていた。最も多かった意見としては、価値観が広がり、自分のレポートに役立ったということだった。自分が思ってもいなかったことを教えられた、自分だけでは考えが固まって良くないレポートになっていたかもしれないとのコメントもあった。また、クラスメイトが選んだテーマが自分が全く知らないテーマだったため興味深かったという感想もあった。さらに、読み手がわかりやすいレポートになるよう意識できるようになった、自分が良くできた点も指摘してもらえて良かったなどの回答もあった。このピア・レスポンス活動は、アウトラインと第 1 稿の時に行ったが、学生から最も高評価を得た。その理由として、テーマの統一により共通の語彙が多く、クラスメイトのレポートの内容が容易に理解でき、コメントがしやすかったからだと考えられる。また、両稿とも事前に教師が語彙・文法・表現の添削を行ったことで、日本語の間違いによって理解が妨げられることなく、学生が内容と構成のみに集中してピア・レスポンス活動が行えたことが大きく影響していると思われる。

授業全体に関して気づいたこととしては、クラスメイトのレポートを見たり、コメントしたり、アドバイスをしたりするだけでも自分のレポートに役立てることができる、多く

の文章を書くより、少しずつ書き方を学びながらレポートを完成させたのが良い、先生と何回も 1 対 1 でコメントをしてもらったことでレポートがさらに完璧になったなどの回答を得た。また、母国の大学でレポートの書き方はすでに学んでいたが、クラスメイトの作文を読んで自分では思いつかない書き方や意見が参考になったという学生がいた。このことから、レポートの書き方をすでに学んだ学生にも、ピア・レスポンス活動の良さを実感できたことがわかった。

この授業で学んだことを、これからの日本語学習や実生活にどのように役立てたいかという質問に対しては、レポートの書き方は、日本語で文章を書く時、将来仕事に就いて報告書を書く時に役に立つ、周りの人との関わりを上手く利用することによって自分の利益になる、事実や根拠に基づいた意見は客観性や信頼性が高いなどのコメントがあった。

最後の自由コメントの欄には、新型コロナウイルスの感染拡大で大学へ行けなかったこと、クラスメイトに会えなかったこと、将来の夢、日本語学習における目標などが綴られていた。

4. まとめと今後の課題

以上、2020 年度春学期、新型コロナウイルスの感染拡大によりオンラインで実施された神田外語大学留学生別科「作文 6」の授業実践の報告と学生の振り返りシートの分析および考察を行った。本授業の最大の特徴は、オンラインで授業を実施したこと、レポートのテーマを新型コロナウイルスにしたことの 2 つがあげられる。

作文の授業をオンラインで行うことになり、まず考えたことは、オンライン上で教師と学生およびクラスメイト同士でどのようにコミュニケーションを取り、どのようにしたら良好な関係性を構築できるかについてであった。振り返りシートの結果からもわかるように、学生同士は、ピア・レスポンス活動を通じて、異なる意見や発想に耳を傾け、思考を整理し、新たな気づきを得ることができたようだ。また、教師が全ての課題について、ブレイクアウトルームで個別に口頭でフィードバックを行ったことで、周囲の目を気にせず、何でも相談しやすい関係性が築けたように思う。しかしながら、少数ではあるが、提出期限内に提出できなかったり、日本語能力が比較的高かったにもかかわらず指示通りの課題を完成させることができなかった学生がいた。これを踏まえ、今後も教師と学生の口頭での個別フィードバックは続けつつ、個人で取り組ませていたレポートの書き方のワークシートなどもクラスメイトと協働で行えるようにするなど、学生同士のコミュニケーションをさらに活性化できる学習環境づくりを今後の課題としたい。

テーマを新型コロナウイルスに決めたことについては、最新のテーマであったため、立ち入り制限があった図書館を利用することなく、インターネット上での資料収集が問題なくできた。また、学生全員に最も関心の高いテーマだったため、お互いに情報を得ようと積極的な姿勢が見られ、話し合いも活発に行われたと思われる。その反面、情報が刻一刻と変化し、更新されるということに気づかされることもあり、膨大な情報の中から自分のテーマに合った資料を収集する時間をさらに多く取る必要があると感じた。

最後に、最終日に行った発表についても、ペアにならなかった学生のレポートに触れることで、知識を深めたり、視野を広げたりと、今後のレポート作成に役立つと考えたが、

質疑応答があまり活発に行われなかった。そのため、全員に発表の感想を述べさせるか、発表も評価の対象とするかなど、改善策を検討していきたい。

参考文献

(1) 石黒圭・筒井千絵（2016）『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク

(2) 宇野聖子・藤浦五月（2016）『大学生のための表現力トレーニング あしか アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』ココ出版

(3) 友松悦子（2013）『小論文への 12 のステップ 中級日本語学習者対象』スリーエーネットワーク

(4) Google Classroom ＜https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none＞
Zoom Video Communications ＜https://zoom.us/＞